

愛媛県立医療技術大学

高 田 智 世*

I. 本校の沿革

1988年4月愛媛県伊予郡砥部町に第一看護学科・第二看護学科・臨床検査学科をもつ愛媛県立医療技術短期大学として開学し、1991年4月地域看護学専攻・助産学の専攻科を併設しました。2004年4月に3年制の短期大学から4年制の愛媛県立医療技術大学として1学部2学科へ移行後、2010年4月には公立大学法人化しました。更に2012年4月に愛媛県立医療技術大学に助産学専攻科を開設、2013年4月には愛媛県立医療技術大学保健科学部の看護学科60名を75名、臨床検査学科20名を25名に入学定員を増やしました。2014年4月には愛媛県立医療技術大学保健医療学研究科として看護学専攻5名と医療技術科学専攻3名の2専攻の修士課程が設置されま

した。大学院を含め全学生数が430名程度の大学として現在に至っています(写真1,2)。

II. 教育理念と教育目標

本学の教育理念は、生命の尊重を基本理念とし、豊かな人間性と倫理観によって培われた広範な視野と深い人間理解の下に、保健及び医療に関する高度の専門的な知識と技術をもって、あらゆる人々の健康と福祉の増進に寄与することができる実践者を育成することを目指しています。

また、保健科学部としての教育目標は、以下のように掲げています。

- ① 豊かな感性：深い人間理解と高度な倫理観及び生命の尊厳を基盤とし、豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する人材を育む。



写真1 愛媛県立医療技術大学 外観



写真2 愛媛県立医療技術大学 構内

* 愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科 takata@epu.ac.jp

- ② 実践能力: 高度の専門的知識・技術を駆使し、科学的根拠に基づいた実践能力を有する人材を育む。
- ③ 協調・共働: 保健・医療・福祉・教育など他の専門職の役割を理解し、柔軟に協調・共働しうる人材を育む。
- ④ 自己教育力: 職業人として自らの行動に責任を持ち、かつ継続的な学習により能力を高める人材を育む。
- ⑤ 柔軟な思考: 医学・医療技術の進歩発展や、保健医療に対する社会の変化・多様化に伴う要請に柔軟に対応しうる人材を育む。

III. 臨床検査学科の教育目標と特色

1. 教育目標

本学の臨床検査学科が2004年4月に3年制から4年制大学として移行した目的としては、豊かな人間性と高度な専門知識・能力を備えた人材の育成を図るとともに愛媛県内の保健及び医療分野における教育・研究・研修の拠点として中心的な役割を積極的に担い、地域医療・社会に貢献する人材を育成することとし、これらを達成するための教育目標を設定しています。2020年には一部見直し、以下の通りとなっています。

- ① 医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の人権や意思を尊重することができる人材
- ② 検査データを総合的に解析する力を培い、臨床診断に寄与することができる人材
- ③ 多職種と連携・協働しながら、医学検査領域の専門家としての役割を果たせる人材
- ④ 臨床検査技師として責任ある行動がとれ、継続的に自己研鑽に努める人材
- ⑤ 医学検査とそれに関連した幅広い分野の発展・向上に寄与できる学究的態度を身につけた人材
- ⑥ グローバルな視点で医学検査を科学的に探求し、地域社会における保健医療を進展させる基礎力を身につけた人材

2. 教育課程編成の考え方(カリキュラムポリシー)と特色

保健科学部のカリキュラムは「共通教育科目」

「専門基礎科目」「専門科目」の3群で1年から4年にわたり系統的に配置しています。更に臨床検査学科の科目配置では、入学後早期より臨床検査学への関心を高めるため、「共通教育科目」「専門基礎科目」と並行して「専門科目」を学び、基礎から応用へと専門性を深められるように科目を置いています。

「共通教育科目」は、教養及び豊かな人間性を涵養する教養科目群と医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探求能力の育成を目指した基礎科目群を1・2年次に2学科合同で開講しています。特に本学では自己教育力を高めることを目指し、主体的な学びや学習資源の活用方法を身につけるための科目(初学者ゼミ、基礎ゼミ等)を1年に配置しています。「専門基礎科目」についても医療の基礎、人間の身体と精神、疾病の成り立ちと回復、社会のしくみと健康に関する科目群を合同開講とし、高い専門教育の土台となるとともに医療人として共通の知識・態度を学ぶ科目群を配置することで相互理解と連携・協働力の育成に繋がるようにしています。更に、「専門基礎科目群」には臨床検査学科特有の検査の基礎に関する科目群のほか、患者の心理に配慮できる臨床検査技師を目指す科目として『患者・家族の心理』を開講しています。

「専門科目」は検査技術学の理論・実践を科学的に追求し高度な専門知識・技術を身につけられるように「専門基礎科目」とともに系統的に配置し、4年次にはこれらの応用・発展に位置づく科目として、医学検査診断学や医学検査研究を置いています。本学科の特色として置いた医学検査診断学は、各分野の教員が症例の検査値を提示し演習しながら検査値の読み方を学ぶことで実践的な力をつけることを目的としており、学生にとっては各分野で学んだ検査を総合的に理解する機会となっています。また、医学検査研究は1年間各教員に配属され、学生が興味ある研究課題に取り組んだ成果を発表会や論文として提出するほか、関連学会等で発表する機会を設けたりしています。

本学科の臨地実習も特色ある内容にしており、

臨地実習Ⅰ(2年次)、臨地実習Ⅱ(3年次)、臨地実習Ⅲ(4年次)と配置しています。臨地実習Ⅰは中規模病院(7病院)における臨床検査技師の役割と臨床検査の位置づけを学び、臨地実習Ⅱは予防医学分野、公衆衛生分野及び環境衛生分野における臨床検査技師の活動(3施設)について学び、臨地実習Ⅲでは大規模病院(4病院)における各分野の臨床検査について学ぶ機会としています。これらの実習は学内学修との連携を図り、臨地実習Ⅱ及びⅢでは発表会を実施することで各学生の臨地実習の学びを共有するようにしています。

また、臨床検査技師の活躍を広げる目的で、自由科目として食品衛生管理者等の任用資格取得科目の開講や臨床検査学科必修科目の修得により甲種危険物取扱者受験資格を得られるようにしており、現在まで多くの学生がこれらの資格を取得しています。

IV. 学生のジェネリックスキルの評価

2014年より本学では、PROG(Progress Report on Generic Skills)テストを実施し、専攻・専門に関わらず、大卒者として社会に求められる汎用的な能力・態度・志向(以下、ジェネリックスキル)を測定し育成するためのプログラムを行っています。時期は、入学時、3年次、4年次と行い、リテラシーとコンピテンシーを測定しています。

毎回結果を学生個人に返却することで、自身の強みを知り、大学生活を通じて自らの伸ばすべき力を知ってもらう機会としています。4年次には就職活動の自己アピールを考える際の参考にもなっています。

V. 最近の動向

1. 国際交流

2018年6月に台湾の高雄医学大学(高雄市)と本学との交換留学協定を結び、2019年3月から派遣をし(写真3)、帰国後は学んだ成果を学内で発表しています。将来の地域医療を担う学生に医療システムや医療保険制度など日本と海外の違いを知ってもらうことで国際的な視野を養うことを目的としています。

2. 砥部町との連携と交流

本学が砥部町に位置することから、2018年から新入生を対象に入学直後に砥部町住民と交流の機会をもっています(写真4)。更に、2020年3月砥部町と相互の連携強化により、より一層の地域発展に資するため、連携協力に関する協定を締結しました。今回の協定を機に、「教育、医療及び公衆衛生の向上」、「地域交流」、「防災及び安全安心なまちづくり」などの各分野で連携を強化し、地域に開かれた大学として、砥部町の更なる保健医療福祉の増進に貢献していく予定です。



写真3 高雄医学大学 研修風景



写真4 砥部町住民による新入生対象のウェルカムパーティーの様子

3. 愛媛県立医療技術大学保健医療学研究科

2014年に医療科学技術専攻が設置され今年で6年目になりました。置かれた状況の変化に合わせて2021年にはカリキュラム改正を行う予定としています。

VI. おわりに

2020年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のPCR検査という言葉がメディアに頻繁に取り上げられ、この検査法の特徴についての話題が多く扱われました。臨床検査技師は検査の専門家として正確で迅速な検査の実施や検査説明を行うほ

か、検査法の研究開発やバイオマーカーの発見にも携われる人材育成も大切だと考えています。また一方で、AI (Artificial Intelligence) の医療現場への導入や在宅医療への臨床検査技師の参加等のように医療体制の変化にも対応できる臨床検査技師の養成も求められてきていることも実感します。今後、急速に加速する医学・医療技術の発展と医療体制の変化に柔軟に対応できる臨床検査技師を養成するため、よりよい大学教育並びに大学院教育について引き続き取り組みたいと考えています。